

新発見した「大坂 真田丸」絵図に描かれた新たな情報について (奈良大学学長の千田嘉博先生の報告より)

※松江歴史館蔵の「大坂 真田丸」絵図を松江「真田丸」、広島市立中央図書館蔵の「摂津 真田丸」絵図を広島「真田丸」と記す

新たな情報① (3頁参照)

- 松江「真田丸」が真田丸主郭南側の堀を「惣構堀」としたことは大変重要である。
この註記は主郭南側の堀が真田丸の一番外側の堀であったことを物語る。
- 真田丸の規模を理解する上で、画期的な手がかりである。

新たな情報② (4頁参照)

- 真田丸主郭南側の堀の途中に、あたかも堀底へ下っていくような傾斜路(スロープ)を描いている。
- 真田丸の主郭内から空堀の堀底に行き来した特別な通路を備えたことを意味したと読み取れる。

新たな情報③ (5頁参照)

- 広島「真田丸」が真田丸の東西に描写した崖表記と堀との関係が南東部分で曖昧になっている。それに対して松江「真田丸」では崖の外側に堀がまわり込むように描写して、城の堀と崖地形の描き方として、より合理的である。
- こうした堀と地形との関係のより適切な描写も、広島「真田丸」と比べて、松江「真田丸」のすぐれた点である。

新たな情報④ (6頁参照)

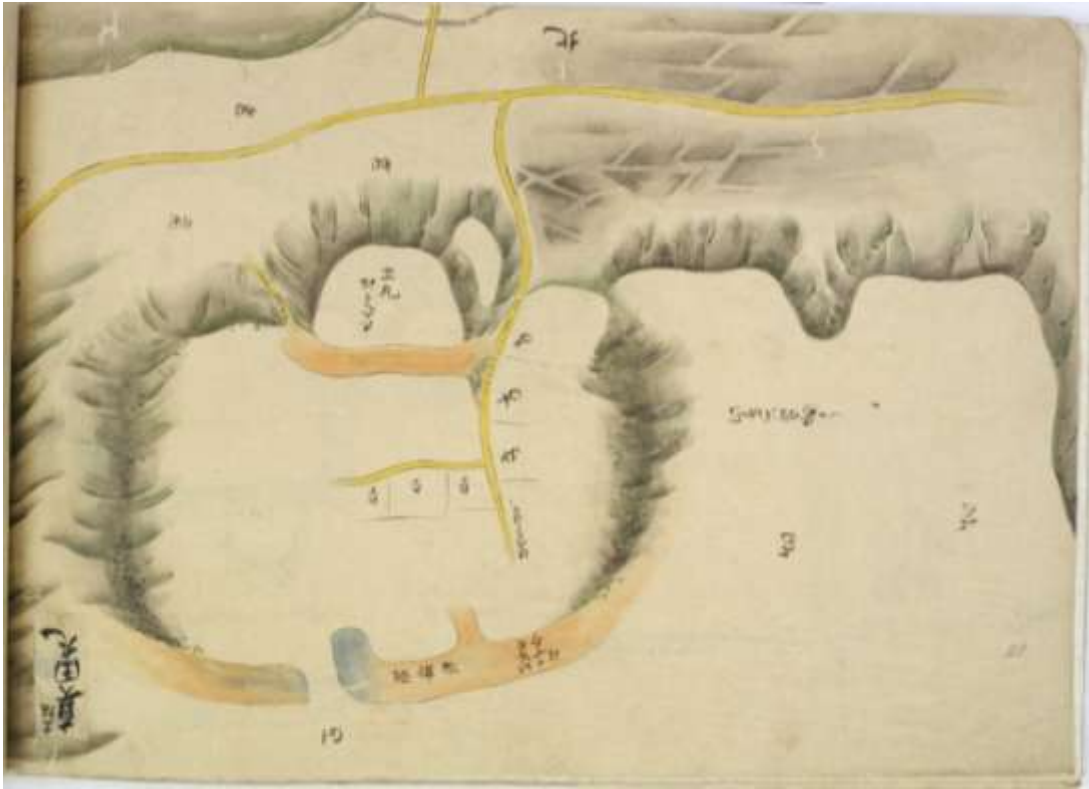
●出丸

- 北側の小曲輪について、広島「真田丸」が「二十間程」と註記するだけなのに対して、松江「真田丸」は「出丸廿五間程」の註記があり、ここが真田丸の主郭に対して出丸であったことを明確に記した。
- これも松江「真田丸」によってはじめて明らかになった重要な情報である。

●腰曲輪

- 松江「真田丸」は、出丸の東側に腰曲輪を描く。
- 広島「真田丸」には見られない描写で、これも新たな発見である。
- 出丸東に腰曲輪があることにより、側面からより効果的に防射できたとわかる。

⇒遺跡化した真田丸を、当時残っていたように地表面観察の成果にもとづいて描き出した松江「真田丸」の歴史的価値は、きわめて高いと考えるべきである。



新発見の松江歴史館蔵「大坂 真田丸」（『極秘諸国城図』所収）
 （※便宜的に北を上にして広島市立中央図書館蔵「摂津 真田丸」と方角を揃えている）



〔参考〕広島市立中央図書館蔵「摂津 真田丸」（『浅野文庫蔵諸国古城之図』所収）
 ※画像データを利用する場合は広島市立中央図書館から入手すること（許諾手続きが必要）

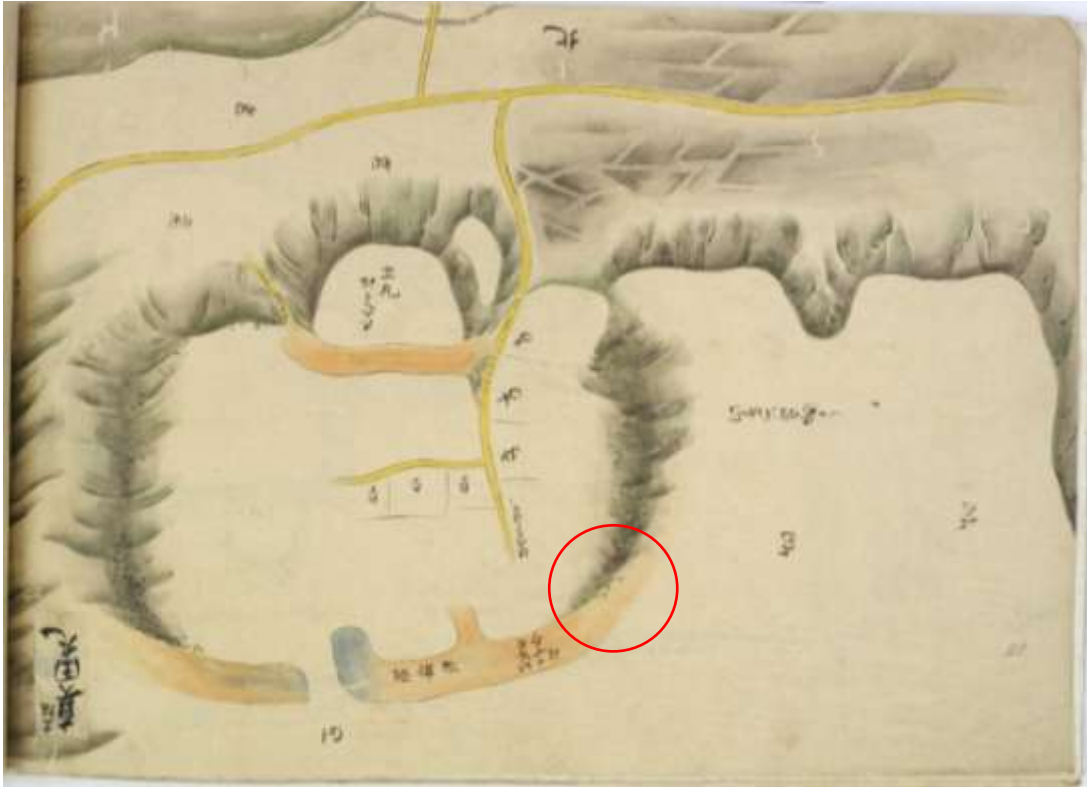
新たな情報①



新たな情報②



新たな情報③



新たな情報④

